

議事要旨(7) ASBJ プロジェクト計画表(案)について

西川副委員長より企業会計基準委員会のプロジェクト計画については、委員会内で非公開で検討してきたが、公開の委員会での審議を経た後、遅滞なく公表したい旨の報告があった。

これに続いて、河本専門研究員より、コンバージェンスに関わる会計基準等の開発プロジェクトについて取りまとめた「プロジェクト計画表」(案)の説明と審議が行われた。

委員会での審議の結果を受け、修正を図った上で報告書として公表されることとなった。

「プロジェクト計画表」(案)に関する説明は以下のとおりである。

企業会計基準委員会では、これまでも国際会計基準とのコンバージェンスの取組みに関して、その取組状況や今後の見通し等を公表してきたが、EU 同等性評価等を視野に入れた工程表策定の必要性を指摘する企業会計審議会 企画調整部会の「会計基準のコンバージェンスに向けて(意見書)」(2006年7月公表)を踏まえ、現在取組み中あるいは今後取組みを予定しているプロジェクトのうち、コンバージェンスに関わる会計基準等の開発プロジェクトについて、「プロジェクト計画表」(案)を取りまとめた。

なお、本計画表(案)の策定にあたっては、特にEUによる同等性評価に関連して欧州証券規制当局委員会(CESR)から補正措置が提案されている26項目の取組状況について、その2007年末までの作業計画と2008年年初の達成状況の見通しを明らかにすることに主眼を置き、当該項目を中心にまとめている。

また、IASBとの間で進められている共同プロジェクトを「全体像アプローチ」に移行する中で、CESRから補正措置が提案されている項目以外についても「プロジェクト計画表」(案)では取り上げている。

「プロジェクト計画表」(案)に対する主な質疑応答は以下のとおりである。

- ・ 「プロジェクト計画表」(案)中、CESRから補正措置が提案されている26項目以外の項目についてもいくつか今後の計画が示されていることにつき、その位置付けを確認する意見があった。これに対しては、主眼は、EU同等性評価においているが、IASBとの間で進められている共同プロジェクトをはじめとするコンバージェンスの取組みに対する計画表であり、これまでの報告にも上がっていた項目を取り上げた旨の回答があった。
- ・ 26項目以外の項目として取り上げられているリースについては、2007年3月までに最終基準の完成が予定されているが、もう少し余裕を持たせるべきではないかとの意見があったが、あくまで計画表であり、変動要因を取り込むか否かについては別途検討したいとの回答があった。
- ・ 開示Aおよび開示Bの用語についての補足を設けるべきとの意見があり、対応することとされた。

以上